

2016年度科教協ヒロシマサークル総会（案）

1. 2016年度年間活動報告（2016年9月～2017年8月）

月	人数	場所	内容
9	12	安佐動物公園	授業実践 ○小3「蝶の育ち」（宇根） 夏の報告 アイスcreamづくり（山口俊）・志賀高原（山崎） 学習 オオサンショウウオの生態と飼育施設見学（田口） 総会
10	6 (11) 21 広場参加者 41 (60) 18 8	平和公園 幟町中 地下司令部 男女参画センター 仙酔島	慰霊碑巡り10月2日 夏の報告 道徳の教科化（塚本）・ヤコウガイとヤギの解剖（木本） ヒロシマ学習会「被爆体験」岡ヨシエさん 合宿について・全国大会について 福山科学お楽しみ広場と授業研究会 山口（一弦琴） 塚本（ブービー風船） 木本（お餅スライム） 岡馬（Xジャイロ） 山口俊（魚釣り浮沈子） 山崎（CDぶんぶんごま） 山口順（アルミホイルの起き上がり小坊師） 竹本（七色PPシートごま） 宇根（尿素の実験） 田中（ストローの矢） ○実践交流会 中3運動 田中・小3植物の一生 宇根 ・仙酔島巡検資料 竹本 山口山口山口山崎田中岡馬森木本塚本宇根竹本三谷岡田泉 合宿 地学巡検
11	2 12 参加者 60	仁川 観音中 牛田公民館	仁川科学の祭典 （山口克・木本） （ゴム動力を使った玩具・割りばし飛行機） 夏の報告 カワニナとり （脇田）東北旅行原発訪問記（浜崎） 報告 仁川科学の祭典（山口克・木本） 学習 在韓被爆者と戦争（井下） 牛田公民館科学お楽しみ広場 ドラミングキツツキ（浜崎） 綿菓子・ジャンボシャボン玉（岡馬） 魚釣り浮沈子・起き上がり小坊師・CDぶんぶんゴマ（山口俊）
12	14	なぎさ中高	授業実践 ○高校 物質の化学結合と結晶（森）

	5	みなとさかい交流館	<p>○中1 密度の学習なぎさの夕陽（星野）</p> <p>観察実験工作</p> <p>新しいデントと古い電池の見分け方・風船と空気を入れた風船の重さ（田中）</p> <p>夏の報告</p> <p>ボルタの電池（山口克）</p> <p>中国大会鳥取（計 25 人参加）</p> <p>参加 脇田・田中・木本・土肥・浜崎</p> <p>広島から 2 本のレポ 科学お楽しみ広場 2</p>
1	1 3 9	観音中 大州小	<p>授業実践</p> <p>○中3「日周運動と年周運動をどう理解するか」（坂本）</p> <p>観察実験工作</p> <p>いつか役に立つシリーズ</p> <p>アルミと銅の棒に穴あきネオジム磁石・変身する絵（山口）</p> <p>報告</p> <p>中国大会・四国大会・基礎講座講師</p> <p>学習</p> <p>被爆樹木の話(堀口力)</p> <p>県教研市教研 レポ5本 サークル員8人</p>
2	1 3	崇徳高	<p>授業実践</p> <p>○障害児中「公開授業と磁石の授業その後」（木本）</p> <p>○中2 高校授業体験「フーとハーからの物理学」（小林）</p> <p>観察実験工作</p> <p>「教鞭でマッハを超えよう！パチッ!!あぁ、スッキリ!!!」・浮沈子(土肥)</p> <p>報告</p> <p>長崎被爆樹木と九州物理研究グループ例会参加（木本）</p> <p>雇い止め裁判（小林）</p>
3	1 4	なぎさ中高	<p>授業実践</p> <p>○中2 電気回路（堀内）</p> <p>実験工作</p> <p>回転舞踏会(木本)</p> <p>渦電流(山口克)</p> <p>報告</p> <p>広島県入試問題について(山口克)</p>

4	1 1	観音中	授業実践 ○障害中 障害児学級被爆樹木調査と年間計画（木本） 実験工作 質問 中学校の星の学習をどう進めたらよいか（星野）
5	1 1	観音中	授業実践 ○中学校3年生の1年間の流れとイオン・酸・アルカリ授業（松本） 実験工作 電磁振り子（田中） ラムネ菓子（松本） 報告 硫化鉄の化合実験について（田中）
6	1 2	なぎさ中高	授業実践 ○「高校生物（生物基礎・生物）の年間見通し」（原田） 実験工作 エア－ホッケー・（土肥） 報告 酸化銅の実験報告(山口) 教育基礎講座 野村（学びの楽しさを生み出す小学校理科授業） 永井（小学校の算数と中学校の数学から見た理科授業） 参加者 山口・山口・塚本・木本・坂本・脇田・浜崎・宇根・田中
	1 7	東区民文化	
7	1 4	なぎさ中高	授業実践 ○「教科書実験の検証：塩化銅イオンの泳動の観察」（浜崎）
8		なぎさ小中高	全国研究大会 教職員 353名 児童生徒 97名 保護者 50名計 500名 科学お楽しみ広場 塚本・宇根・山口克・坂本・木本 打ち上げラワン（塚本）・回転舞踏会（木本） 科学お楽しみ広場 塚本・山崎・山口克・坂本・木本 一弦琴（山口克）・お餅スライム（木本）
	5	南観音公民館 子ども38名	
	5	中央公民館 子ども30名	

2. 反省総括

- ①八幡川河口生物調査を05年度～14年度（12年度はなし、14年度は15年9月22日実施 工大高）この調査の積み重ねから八幡川・広島湾の授業案を出すことになっている

が、それが大きな課題である。15年度はしていない。16年度は決まっていない。常に広島・ヒロシマを教材化した授業が実践されることをこれからも望む。

②授業レポートは16年度 13本（04年度から13年連続2桁のレポ）

内訳は障害児2本 小学校2本 中学校7本 高校2本 宇根さんのがんばりで小学校実践報告ができた。今後も小学の宇根さん、高校の森・原田・土肥さんには積極的に発表をお願いしたい。なぎさの星野さん・堀内さんが初めて実践発表してもらえたことも良かった。実践発表をお願いしていたが連絡無く休まれる方がいた。残念なことである。

③観察実験工作の提案は、10月・7月例会以外ではすべてで観察実験工作紹介ができた。

12個。アイスクリームやラムネ菓子づくりが良かった。来年度も続けていきたい。

④例会会場を観音中・なぎさ中高に固定できた。これは参加者にとって大切なことである。

崇徳高・幟中でも各1回行った。

2016年度の例会・合宿・学習会（基礎講座・シンポ・広場を除く）参加者は164名今年度も例会参加者が2ケタであった。03年から14年連続100名を超えた。ヒロシマ学習会と一緒にやっていることが功を奏している。

例会に新しく参加し、また連続して参加する先生、初めての報告者を大切にしたい。

青年教職員のための授業作りということで1年間計画的に提案をした。報告者は2つのことを意識してほしい。1つは、ねらいが明確な提案であること。2つ目は、急な提案の変更（提案変更の場合は早めに連絡すること）はそれを聞きに来た方に迷惑をかけるので、学校の年間計画としっかり精査して提案月を考えること。今後もこの取り組みは続けていきたい。

⑤新しく参加された先生を次の例会にも来てもらうために取り組みが必要である。それは魅力のある例会にしていくことである。そのために1つは、理科工作・授業実践の2本立てでやっていくこと。2つ目はわからないことがわからないといえる雰囲気作り。3つ目はわからないことに丁寧に答えること。この3つのことを大切にしていく。さらに身近にいる職場の仲間に声をかけることも大切である。また、新しい参加者には1年間は連絡を続けていくことである。

4年間でできていないが、青年の発掘として、卒論や修論・その他現在研究していることを提案してもらい、サークルのことを知ってもらう。近くにそのような仲間がいれば声をかけてほしい。

新採用者への通信発送をやってきた。市中研の最初の会議で新採を確認すること（松本先生担当）。事務局の人を知っていれば聞いておくことが大切である。今後でもできる限り続けていく必要がある。

メールで例会案内を早く知らせること（今後の予定を入れること）ができた。ホームページでの案内や学習の様子を知らせることもできた。

⑥事務局会は定例化できたし、事務局会原案も出せた。通信を毎月出すことができた。（通

信を書く人が偏っている) 今後、担当者が困難な時は事務局でカバーするように取り組む(簡単でもよいとする)。通信を理科教室編集部に届けることができた。事務局員の欠席がほとんどなかったので、郵送が手早くできた。

- ⑦三谷さんの奮闘により福山での科学お楽しみ広場・実践発表ができ、合宿も鞆でできた。秋のイベントの合宿は10月?に予定

科学お楽しみ広場はなぎさ公園小体育館で147名の参加であった。2017年度は五日市公民館で行う。

今後も福山・三次や呉のサークル結成に具体的に動く。

- ⑧地域とのつながりとして南観音公民館で4年連続「科学お楽しみ広場」を開催した。38名参加。中央公民館で初めての「科学お楽しみ広場」ができた。30名参加。公民館の方の宣伝で今後も新しい公民館つながりができるかもしれない。これからもサークル員の援助によって公民館活動は続けていきたい。

全国大会の取り組みの中で科学お楽しみ広場に文教女子大学の学生参加ができた。サークルや例会に参加してもらえそうな内容を考え、働きかけていきたい。

組合青年部のつながりがとても弱いので追求していく必要あり。

- ⑨理科教育の国際交流は14年目。2016年11月の仁川科学の祭典には2名の参加。2017年8月の全国研究広島大会に8名の参加を得た。科学お楽しみ広場にも参加してもらえた。これからも日韓の教育交流を続けて行く。

- ⑩職免研修は南観音・中央公民館での科学お楽しみ広場。全国研究大会は出張(木本・永田)

- ⑪ホームページでの通信・例会案内・活動状況等のアップができた。不特定多数の方が見るホームページは会員拡大においても重要である。よって今後も活動の見えるホームページでありたい。

- ⑫新採への例会案内や基礎講座・科教協全国大会の宣伝・そしてヒロシマ学習会の案内はできた。

3. 事務局人事

代表 (田中) 事務局長 (木本)

事務局

通信案内担当 (塚本・木本) ・ イベント担当 (山口俊・岡馬)

市民教担当 (脇田) ・ 理科工作担当 (浜崎・土肥)

ヒロシマホームページ担当 (田中・山口克)

小学校実践担当 (宇根・吉永)

中学校実践担当 (松本・佐々木・森)

高校実践担当 (堀内・星野・原田)

4. 2017年度の目標と年間計画

「時間を意識する・時間を守る・サークルの仲間や若い仲間を大切にする・そして増やす」

- ①ヒロシマの教材化→八幡川河口干潟調査のまとめをやる・原爆や地域の教材化を行なう。
- ②授業レポート検討（障害児者・小学校・中学校・高校すべての学校のレポート発表をめざす）
教研や全国大会等に発表するレポートを意識して提案する。**急なレポート発表大歓迎。その月の第一土曜日までに木本に連絡する。（宣伝のため）**
- ③教材教具の紹介と製作（最低1年間に2回は製作する）
材料は10人分
理科工作担当は材料を準備し製作を行なう。また、担当以外でもおもしろいと思った教材教具があれば、材料を準備し行なっても良い。（費用は事務局に要求）
宣伝するため、その月の第一土曜日までに木本へ連絡する。
頭骨標本・豚足標本作りで大学生を巻き込んで行いたい。
- ④例会（第4土 13時～17時 観音中）事務局会（第1木 18時～幟町中）
新採用者や若い先生が参加しやすいように、わかりやすい説明・実験を実際行なってみるなどに心がける。また質問の時間などを設定する。要求があれば、次回の例会にその単元の授業づくり案や実践の発表を計画する。
- ⑤学期1回のイベント（学期という考え方をあえて残す）
1学期 ヒロシマ学習 2学期 秋のイベント（合宿や実験講座等）
ヒロシマ学習とは科教協ヒロシマ独自の研修会。
科教協ヒロシマを知ってもらい取り組みとしての実験講座は要請があったら行なう。
- ⑥通信の定期発行
通信担当が参加できない場合は事務局で対応する。1枚でも継続することが大切。
通信を1年間、新採用者にメール便送る。**通信発行の第1木に間に合わせるために発表者は例会があったその日に通信担当にメールやファイルで原稿を送る。**
- ⑦宣伝活動の確立
ホームページの更新を行なう（例会案内・イベントは必ず）
基礎講座や科教協全国大会・科教協中国大会・ヒロシマ学習会などの宣伝
- ⑧財政の確立（会計年度 9月～8月）
活動には必ず資金がいる。それがあからいろいろな取り組みができ、仲間意識も深まる。まずは会費（2000円）を納入すること。さらには教材の普及もすること。
昨年度から支出が大幅に増大しているので収入も増大するようにする。
- ⑨サークルの会員拡大
会費納入を2年間ない場合は会員見直しを考える
新採用者や青年教師に向けての基礎講座を組合とともに開催し、会員拡大をしていく。
職場にいる仲間や知り合いに1回は声をかけて例会や学習会などに誘う。
- ⑩親や地域とのつながりをつくる実験講座や理科工作（科学お楽しみ広場）の開催
科学おたのしみ広場であまった材料を無駄にせず、児童館・公民館の広場で使う。

⑪アジアの国々（とくに韓国）との教育交流

⑫大学や他の自然科学関係施設・機関との連携

安田女子大学・文教女子大学等の学生が参加できる会を作っていく。

⑬理科教室の定期購読と普及

2016年度年間予定計画（9月～8月）

月	行事等年間予定	例会場所
9月	八幡川生物調査（日） サークル総会・例会（16日）	なぎさ中高
10月	実行委員会・ヒロシマ学習会・例会（28日） 合宿	観音中
11月	仁川科学の祭典（10～11日） 例会（25日）	韓国 仁川 観音中
12月	例会+忘年会（16日） 科教協中国大会 in 岡山（26～27日）	観音中
1月	例会（27日）	観音中
2月	県教研（日） 例会（24日） 実践交流会（午後）	観音中
3月	例会+打ち上げ会（17日）	観音中
4月	例会（28日）	観音中
5月	例会（26日）	観音中
6月	基礎講座（日） 例会（23日）	東区民文化セ 観音中
7月	例会+打ち上げ会（21日） 科学お楽しみ広場（28日）	観音中 五日市公民館
8月	科教協全国大会 in 群馬（3～5日） 公民館・児童館活動・特別例会	健大高崎高校